



第33期放射線安全取扱部会 支部長，委員長ご挨拶

北海道支部長に就任して

北浦 廣剛

第32期に引き続き北海道支部長を務めさせていただきます北海道医療大学の北浦です。今期も支部委員の方々のお力添えのもと支部活動を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

今期の北海道支部委員を紹介いたします。再任委員として、3期目の華園究氏(酪農学園大学)と筆者、そして2期目の佐藤博隆氏(北海道大学)には継続して就任いただきました。一方、北野尚弘氏(北海道電力)の任期満了にともない東山貴之氏((株)千代田テクノル)、前支部長の久保直樹氏(北海道大学)の後任として佐藤香織氏(札幌医科大学)を新委員に迎えました。長らく欠員が続いていましたが、第33期より北海道支部定員5名が充足されました。

定例の活動は、放射線取扱主任者試験の解答例作成と教育訓練e-ラーニング作成、コロナ禍で途切れておりました支部研修会・施設見学会の開催です。

一昨年、令和4年度となりますが、放射線安全取扱部会年次大会・第63回放射線管理研修会(Web大会・北海道支部)を開催させていただきました。皆様のご協力に感謝いたします。大会アンケートでは、オンライン開催を継続してほしいとの要望が予想以上に多く、可能であれば研修会・施設見学会もオンライン併用で開催できればと考えています。

アイソトープ施設は、筆者を含め私立大学での施設更新を断念し関係する方々も減少傾向にあります。この状況の中でなんとか次代へのバトンをうまく引き継げるよう務めてまいりたいと思っております。部会員皆様のご指導、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(北海道医療大学薬学部)

東北支部長に就任して

山本 文彦

東北医科薬科大学の山本文彦と申します。前期に引き続き、東北支部長を務めさせていただくことになりました。第33期の東北支部は、新たに齋藤美希委員(弘前大学)と高橋和弘委員(福島県立医科大学)を迎え、船木善仁委員(東北大学)、日尾彰宏委員(東北大学)、比嘉剛志委員(東北大学)と共に、計6名で運営してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私自身が支部委員に就任した第31期は、新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響で支部活動がほぼ停滞せざるを得ない状況でした。支部長を務めた第32期では、コロナウイルスの性格も少しずつ明らかになりつつあり、支部活動の再開に向けて努力いたしました。Web遠隔会議システムの活用やハイブリッド講演の試験導入のおかげで、令和4年度の研修会イベントである「放射線管理実務セミナー」を再開することができました。令和5年度には制限なしのセミナーとして開催し、参加者から好評を得ることができ、対面開催の効果を実感しております。

また、放射線取扱主任者試験の解答解説の作成等、支部の重要な役割を果たしていく所存です。仙台が試験の実施会場から外れたことで、特に東北地区の大学生の受験意欲が減少している現状に危機感を抱いておりますが、東北支部を含む各支部の解説が彼らの興味を引き、学習に役立つことを願っております。

最後に、第33期の活動においても、皆様のご指導とご協力を仰ぎながら支部活動を進めていくと共に、より良い成果が得られるよう努力いたします。何卒よろしくお願い申し上げます。

(東北医科薬科大学薬学部)

関東支部長に就任して

佐々木 博之

第32期に引き続き、第33期関東支部長を拝命いたしました富士電機の佐々木です。今期も支部委員の皆さんのお力添えのもと精一杯務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。今期の関東支部委員を継続期ごとにご紹介いたします。3期目の秋山和彦氏（都立大）、稲塚祥次氏（イング）、鈴木朗史氏（長瀬ランダウア）、廣田昌大氏（信州大）、藤井智彦氏（帝京大）、2期目の片岡賢英氏（慶應大学）、佐山邦之氏（日立製作所）、新たに赤塩敦子氏（理化学研究所）、小坂尚樹氏（東大）、関健介氏（杏林大学）、松村万寿美氏（筑波大）をお迎えし、佐々木を含めた計12名で運営してまいります。今期のメンバーは研究、加速器、メーカー、サービスと多様性に富み、管理実務や許認可申請等経験豊富なベテランから次代を担う若手の布陣です。アグレッシブで活動熱心な方が多いのでとても期待しております。昨期の活動は試験問題の解答例作成やe-learning教材作成のほか、外部講師派遣、見学会等多岐にわたりました。今期も引き続き時代に沿った企画・運営をしてまいりたいと思います。また今年度は令和6年度放射線安全取扱部会年次大会（第65回放射線管理研修会）を関東支部が担当し、松本市で開催いたします。この大きなイベントを成功させるため現役・OBの支部員の協力のもと実行委員会が発足し、全国から参加される皆さんが喜んでいただけるようなプログラムを企画しております。5年ぶりに対面の交流会も開催いたしますので、皆さんのご参加をお待ち申し上げます。

コロナ禍が明け、対面での交流も広がっています。一方で働き方改革からリモートでの活動も定着しました。支部活動のあり方と会員サービスの両立を模索しつつ、部会を盛り上げていきたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

（富士電機(株) 原子力・放射線事業部）

中部支部長に就任して

大矢 恭久

このたび、第33期中部支部長を務めさせていた

だくことになりました静岡大学の矢野です。支部委員の皆様の協力の下、支部活動を活発に進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

支部委員は、大場理氏（愛知医科大学病院）、木村寛之氏（金沢大学）、杉田亮平氏（名古屋大学）、田中将裕氏（自然科学研究機構核融合科学研究所）、山口智宏氏（金城学院大学）、山下英二氏（東名古屋画像診断クリニック）、山本晃生氏（アロカ(株)）と私の8名になります。6名を新任としてお迎えすることになりました。新しい発想や意見を大切にしたいと思っております。

中部支部の活動は、教育訓練、支部研修会又は施設見学会及び放射線取扱主任者試験の解説作成ですが、教育訓練はe-learningが主になりつつあり、受講者数も増えているようです。今後も同様の傾向が続くと思われます。また、支部研修会又は施設見学会はコロナ禍以後開催を見合わせております。主任者試験の解説作成は支部委員全員で分担して、わかりやすい解説の作成に努めています。名古屋会場がなくなってから長くなっていますが、ぜひ復活してもらえるように継続的に働きかけていきたいと思っております。今年度のこれらの活動については支部委員の皆様の意見を聞き、検討していきたいと思っております。昨年度は放射線安全取扱部会年次大会を原正憲前支部長の下、富山で開催することができ、盛会裏に終えることができました。年次大会で養ったノウハウを生かし、支部研修会等を企画していけたらと思っておりますので、皆様のご指導のほどよろしくお願いいたします。

（静岡大学学術院理学領域）

近畿支部長に就任して

稲垣 昌代

このたび、井原勇人前支部長（和歌山県立医科大学医学部）の後任として、第33期近畿支部長を拝命いたしました近畿大学原子力研究所の稲垣です。このような長としての経験はほとんどないため、至らないことが多々あるかと思いますが、支部委員の方々の心強いお力を得て、支部活動を推進してまいりたいと思っております。

第33期の支部委員を紹介いたします。再任委員

は、稲垣昌代（近畿大学原子力研究所）、支部長補佐として支えていただく前支部長の井原勇人氏（和歌山県立医科大学医学部）、朝田良子氏（大阪公立大学大学院工学研究科）、磯部久美氏（（公財）原子力安全技術センター）、梶白育男氏（日本メジフィジックス(株)）、奥野忠男氏（（株）アトックス）の6名です。新たな4名のメンバーとして、菓子野元郎氏（奈良県立医科大学）、平野雄生氏（（株）日本環境調査研究所）、藤本裕之氏（京都大学環境安全保健機構）、副支部長として松本敦氏（（株）コーガイソトープ）に参加していただき、総勢10名で活動いたします。

今期も近畿支部の伝統である「多様性」に富んだ支部委員構成となっております。大学から団体、企業、そして核医学、生命科学、放射線生物、放射線計測・管理等のように専門分野も多岐にわたっています。また、女性委員も引き続き3名就任しております。

今期の活動は、来年の近畿支部担当の年次大会開催を見据え、対面での活動機会を増やし、近畿支部特有の交流の輪をどんどん広げていきたいと思っております。また、歴代の支部長が築き上げられた持続性と機動性を活かした活動を、ぜひとも続けていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



(近畿大学原子力研究所)

中国・四国支部長に就任して

岩崎 智之

第33期の中国・四国支部長を拝命いたしました愛媛大学学術支援センター医科学研究支援部門RI実験施設の岩崎智之と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。私自身は、支部委員自体も2期目ということで経験の浅い若輩者ではありますが、中国・四国地区から放射線安全取扱部会及び全国の放射線業界を盛り上げていくため、精一杯務めていきたいと思っております。

今期の支部委員は、再任者が前支部長の寺東宏明氏（岡山大学）、松嶋亮人氏（広島大学）、土屋雅之氏（（株）千代田テクノル）と私です。そして新委員としては、堀川秀昌氏（徳島大学）と甲高彩華氏（島根大学）をお迎えしています。6人体制で少人数ではありますが、多様性に富んだ布陣で、既存の枠にとらわれない新しい発想や提案ができる精鋭が揃っていますので、どうぞご期待ください。

定例の活動は、支部研修会の開催と放射線取扱主任者試験の解答例の作成を予定しています。前期、久しぶりとなる対面実施での支部研修会を開催することができました。実際に顔を合わせ交流することは、活発な議論や効果的な実習ができることを再認識しました。開催時期は年度後半になると思っておりますが、今期も皆様に有用な研修会を企画できればと思っております。一方支部委員の活動は、中国地方と四国地



写真 第33期第1回支部委員会 Zoom スナップショット

写真右上から時計回りで、岩崎支部長、松嶋委員、堀口委員、土屋委員、甲高委員、寺東委員

方という瀬戸内海を挟んだ地域性もありますので、オンライン会議のメリットを活かし、気軽に集まって話せるアットホームな関係を築いていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(愛媛大学学術支援センター)

九州支部長に就任して

尾上 昌平

このたび、第33期九州支部長を拝命しました鹿児島大学の尾上昌平と申します。エネルギーに支部活動を牽引していた阿部利明前支部長（産業医科大学アイソトープ研究センター）の後任ということで、大変身が引き締まる思いです。九州支部委員の皆様と力を合わせて、支部活動を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

九州支部では、従前から取り組んでいた「次世代主任者育成プロジェクト」が実を結び、2名の若手主任者を支部委員に加えることができました。第33期は、白石善興氏（留任、熊本大学）、三浦美和氏（留任、長崎大学）、松田詳平氏（留任、(株)千

代田テクノル）、永元啓介氏（新任、産業医科大学）、山川博文氏（新任、福岡大学）と私の6名体制で運営を行ってまいります。

九州支部では第32期において、放射線安全取扱部会細則第2条に定める活動内容から重点項目を掲げ、年度末に活動を総括して改善につなげるサイクルを試みました。第33期もこの活動を踏襲し、前期に引き続き「主任者等の連携と情報交換に関する事項」を重点項目に掲げ、活動を行ってまいります。九州支部の主な定例の活動は、支部研修会の開催と放射線取扱主任者試験の解答例作成です。重点項目を念頭に置き、ハイブリッド形式で開催した2023年度支部研修会では、オンラインを含めて100名を超えるご参加をいただき、活発な情報交換が行われました。夜の研修会第2部が盛り上がったことは言うまでもありません。今期の研修会もハイブリッド形式で開催し、より多くの主任者、管理担当者と深くつながれる機会を設けたいと考えております。九州支部の活動へのご理解、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

(鹿児島大学先端科学研究推進センター)

法令検討専門委員長を拝命して

桧垣 正吾

前期に引き続き法令検討専門委員長を務めます。習うより慣れよ、という言葉がありますが、実務を行ううちに法令検討専門の活動が理解できるようになりました。

前期では、大きな活動として、原子力規制庁の予防規程ガイドの改定版に対応した解説書の改定を行いました。予防規程の変更期限である令和5年10月よりも早い4月からの変更に対応できるよう令和4年12月に公開することができました。部会員内外からの反響が非常に大きく、多くのご質問を頂戴しました。この場をお借りし、委員一同から感謝申し上げます。

この活動は一段落つきましたので、今期は放射線管理Q&Aの追加・更新等定常的な活動を地道に行う計画です。なかなか目立った活動ではありませんが、内容の正確性はもちろん、放射線管理の初心者に向けても有益な資料となることを心がけて適切な

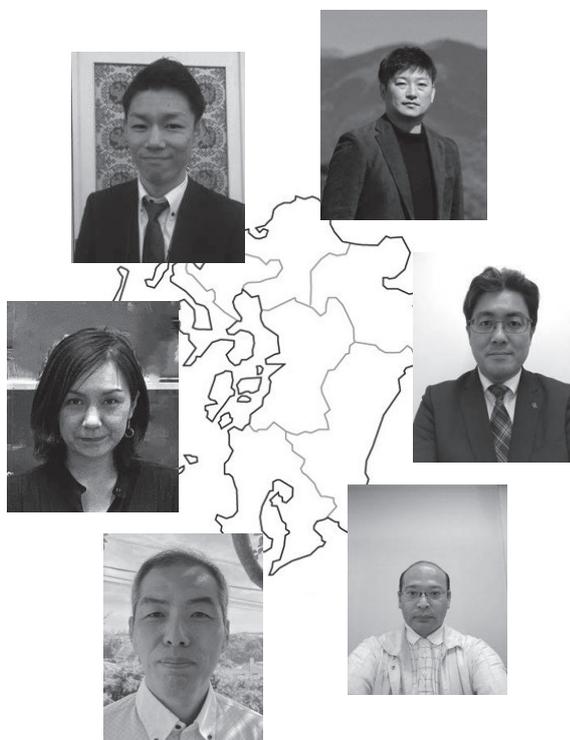


図 第33期九州支部委員構成（右上より時計回りに永元氏、松田氏、白石氏、筆者、三浦氏、山川氏）

表現になることを目指して委員会ごとに定期的な改定を行っています。

予防規程ガイド解説書の改定の筆頭著者であった齋藤美希氏と、委員会での議論を主導してくださった田中鐘信氏が今回交代されました。今期は、北実氏（鳥取大学）、鈴木智和氏（大阪大学）に加わっていただきました。他の支部・専門委員会がフレッ

シュなメンバーを揃える中、前期から継続の飯塚裕幸氏（東京大学）、河内杉雄氏（PDR ファーマ）、亀田周二氏（千代田テクノル）と共に、皆様ご存知の実力派のメンバーで活動を行います。私ももう少しだけ委員長を務めます。引き続きご支援の程よろしくお願いいたします。

（東京大学アイソトープ総合センター）